

### 5. 5. 1 協定大学留学

年度	学科	氏名	留学先大学	留学期間
1997	数物科学科	石 井 秀 実	Marymount College	1997. 8 ~ 1998. 6
1998	物質生物科学科	周 藤 真理子	Marymount College	1998. 8 ~ 1999. 5
1999	数物科学科	斎 藤 園 江	Marymount College	1999. 8 ~ 2000. 5
2000	物質生物科学科	三 木 弘 子	Wellesley College	2000. 8 ~ 2001. 5
	物質生物科学科	山 本 千香子	The University of Bristol	2000. 6 ~ 2001. 5
2001	物質生物科学科	小 林 寿 美	The University of Bristol	2001. 6 ~ 2002. 6

### 5. 5. 2 認定大学留学

年度	学科	氏名	留学先大学	留学期間
1999	物質生物科学科	松 永 理 乃	Johns Hopkins University	1999. 9 ~ 2000. 5

注)

**協定大学留学** 本学が協定を結んだ大学への留学をいう。留学に関する審査は本学で行われ、1年を限度として留学期間が本学の在学期間に算入される。また30単位を限度として、留学先での取得単位が本学の単位として認定できる。協定留学の場合は、学費を本学で納め、留学先では免除となる。協定大学は2002年4月の時点で海

外5カ国12大学である。

**認定大学留学** 本人が選択し志望した留学先大学を、事前に本学に申請して承認された留学をいう。1年を限度として留学期間が本学の在籍期間に算入される。また30単位を限度として、留学先での取得単位が本学の単位として認定できる。

## 5. 6 理学部における奨学金制度

日本女子大学理学部には、理学部独自の奨学金である、(1) 丹下記念奨学金、(2) 河上サワ記念奨学金および

(3) 日本女子大学理学部奨学金が設けられています。

### 5. 6. 1 丹下記念奨学金

本奨学金は、ドクトルオブフィロソフィー農学博士丹下ウメ先生(1873~1955)を記念する研究奨励賞として設けられたものであり、辻キヨ著「先覚者丹下先生」の収益金を基とし、学生及び有志(故辻キヨ名誉教授、中村節子名誉教授、村岡全子名誉教授)の寄付を加えて本奨学金の基金として昭和32年5月に規程が制定されました。

### 5. 6. 2 河上サワ記念奨学金

本奨学金は日本女子大学家政学部家政理学科二部(生物農芸専攻)における故河上サワ名誉教授の学科の発展に尽くされたご功績を記念して設けられたものであります。奨学金の基金は、故河上名誉教授のご遺族の芳志によるものであり、昭和53年4月に制定されました。理学

部設立後、改めて平成7年4月に規程が改訂され、本奨学金は毎年1回2月初めの卒業論文発表会後に理学部数物科学科および物質生物科学科の4年次学生のなかから、学業・人物ともに優秀な学生に授与されています。但し、物質生物科学科の学生の中からは化学分野をテーマに卒業論文を提出した学生に授与されます。

部設立後、改めて平成7年4月に規程が改訂され、本奨学金は毎年1回2月初めの卒業論文発表会後に理学部物質生物科学科の4年次学生の中から、生物分野をテーマに卒業論文を提出した学業・人物ともに優秀な学生に授与されています。

### 5. 6. 3 日本女子大学理学部奨学金

本奨学金は、当初日本女子大学家政学部家政理学科の発展のために設けられたものであります（昭和40年5月制定）。理学部の改組が達成されたのに伴い、平成7年5月に改めて規程が改訂され、理学部のさらなる発展のために理学部学生の学術奨励賞として設けられました。本奨学金の基金は、日本女子大学に理学部を設置するため

に学生と教職員との協同において種々の催物を行なって得たものであり、理学部設立後の有志（館岡孝名誉教授、中村節子名誉教授、村岡全子名誉教授）の寄付を加えて新たに本奨学金の基金とされました。奨学金は、年1回2月初めの卒業発表会後に理学部に属する学生の中から学業・人物ともに優秀な学生に授与されています。

### 5. 6. 4 理学部における奨学金受賞者リスト（1995～2002）

#### 丹下記念奨学金

	数物科学科	物質生物科学科
1995年度	大 矢 百 合	真 下 ちひろ
1996年度	三 浦 賢 子	白 井 園 子
1997年度	星 野 恵美子	野 路 桂 子
1998年度	中 谷 理 子	水 間 章 子
1999年度	徳 本 陽 子	周 東 真理子
2000年度	川 上 直 子	吉 田 麻 子
2001年度	矢 野 紀 子	渡 辺 智恵子
2002年度	山野井 瞳	藤 本 阿沙美

#### 河上サワ記念奨学金

	物質生物科学科
1995年度	尾 形 典 子
1996年度	伊 藤 彩
1997年度	網 野 小百合
1998年度	池 田 有里子
1999年度	前 田 梨 恵
2000年度	小 林 玲 子
2001年度	松 村 裕美子
2002年度	丸 山 啓 子

#### 日本女子大学理学部奨学金

	数物科学科	物質生物科学科
1995年度		小 宮 友 恵
1996年度	酒 元 佳 子	
1997年度		森 美香子
1998年度	赤 木 智 子	
1999年度		橘 幸 子
2000年度	五 味 久 恵	
2001年度		野 口 清 香
2002年度	中 島 亜裕美	

## 付 設立時と現在のカリキュラム

理学部設立時の授業科目表を付表1に示す。数物科学科では科学的現象の根本である数理現象並びに物理現象を分析・総合・応用する能力を養うことを目的に、1年次で数学、物理両分野、および関連する情報分野にわたる基礎的な科目を修得させ、2年次以上ではそれぞれの分野の専門科目を修めることができるようにカリキュラムが組まれた。物質生物科学科は物質の本質および生物現象の総合的な把握と、解析・応用する能力の開発を目的に、化学と生物学の両分野の科目を整理して、カリキュラムの統合化を図り、まず両分野および物理学にわたる基礎的な科目を十分に修得させた上で、物質科学、環境科学、分子生物学、生物科学の4つの履修システムのいずれかを修められるようにした。また付表2に両学科にそれぞれ対応する大学院数理・物性構造科学専攻と、物質・

生物機能科学専攻の授業科目表を合わせて示す。なお数物科学科においては数学または理科の、物質生物科学科においては理科の、中学および高校教諭一種免許状が、大学院ではそれぞれの専修免許状が取得可能なカリキュラムになっている。

2002年度現在の授業科目表は付表3、付表4のようになっている。この間に大学設置基準の大綱化に対応する全学的なカリキュラムの改革があり、理学部においては一般教育科目の廃止にともなって、基礎的な理学部共通科目を新設して、両学科の学生が履修できるようにしている。また社会の要請に応じて情報関連の科目が整備され、特に数物科学科においては2001年度入学生より高校情報科教諭の免許取得も可能となっている。